

自動車学科の現状紹介

全自研が研究大会開催

全国自動車教育研究会(全自研、佐々木会長)はこのほど、「第29回全国自動車教育研究大会」(写真)を岡崎ニューグランドホテル(愛知県岡崎市)で開いた。文部科学省から担当者を招き「高等学校学習指導要領教科「工業科」の円滑な実施に向けて」と題した講演を行ったほか、各校が取り組む活動内容について教員が発表した。

同大会は高等学校、高等専門学校、自動車関連学科における諸課題について研究、討議し、教育内容や方法の改善を図ることを目的に開催している。

研究発表では4校の取り組みが紹介された。福井県立坂井高等学校機械・自動車科、自動車コースの清水賢教諭は、2014年に福井県内最大の総合職業高等学校として

再編された同校の現状について動画などを交えて説明した。

研究協議では3校の活動状況を紹介。岐阜県立技術工業学校自動車科の三輪照彦教諭、木村英隆教諭は、使用済み実習車庫のトヨタ自動車「カローラ」をMR(ミッドシップエンジン)、リアドライブ化する活動を紹介した。

各工程で発生したトラブル



を生徒とともに解決していく過程や、生徒に対するきめ細

やかな学習管理などを行う様子について説明した。

佐々木会長は「日本は人口減少の真っ只中であり、人手不足や人材不足が課題になっている。右者の自動車離れ、二輪車離れが進み、工業高校に入学者の生徒の数も減っている。未来のものづくりを守っていくためにも、情報科学分野の強化など、カリキュラムを現代の子どもたちにとって魅力的なものに変えていくことが重要だ」と語った。

コーキングスト

リップバーに新製品

空研

エアツールメーカーの空研

(中川植之社長、大阪府羽曳